

NCGG SEMINAR

食事と腸内細菌が形成する腸管環境の理解 と健康・長寿研究への新展開

國澤 純先生

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
ワクチンマテリアルプロジェクト
& 腸内環境システムプロジェクト
プロジェクトリーダー



平成30年6月15日(金) 16:00~17:00

第1研究棟2階 小会議室

近年、「腸内細菌」や「食事」といったキーワードを中心に腸内環境と健康との関連が注目されています。食事に含まれる様々な栄養素や成分は、我々の体を構成する分子や細胞の基本骨格となることから、食事の中身や量は身体状態に大きな影響を与えると想像できます。また我々の腸管には数多くの腸内細菌が存在し、食事の代謝やそこから産生される代謝物・菌体成分を介し、生体機能に影響を与えています。

一方、生体側の観点でみると、腸管は食べ物の摂食・消化・吸収を担うだけでなく、多くの免疫細胞が存在する体内最大の免疫臓器でもあります。腸管免疫は生体防御やアレルギー・炎症などに関わるだけでなく、糖尿病や肥満などの生活習慣病にも関わることが示されてきており、今後、健康維持における腸管免疫の重要性がさらに注目されてくるものと予想されます。

本講演では、食用油やビタミンを例に、食事や腸内細菌を介した腸内環境の構築と免疫制御・生体応答との関する基礎研究、コホート研究を活用したヘルスサイエンスへの展開、さらにはその知見を活用した機能性食品や創薬開発の可能性について、我々の研究を中心に紹介したいと思います。

連絡先：老化機構研究部 丸山
(5002)